

事業報告書

1 支援団体名	緑川・球磨川分水嶺会議
2 事業名称	緑川・球磨川分水嶺植林会
3 実施日時	平成 20 年 9 月 23 日(緑川 下草刈)・平成 21 年 2 月 7 日(緑川植樹会) 平成 20 年 9 月 23 日(球磨川 下草刈)
4 実施場所	下益城郡美里町洞ヶ岳(緑川)・球磨郡山江村万江川水源の森(球磨川)
5 事業目的、内容及びその効果	<p>(事業実施状況・内容)</p> <p>昨年実施した植林会の内容分析と反省を踏まえ、今回はより実践的な「体験型啓発活動」として、源流域の二次林活用の意義をはじめ実際の植林方法、鹿食害対策、事後のメンテナンスに至るプロセスを実習形式でおこなった。</p> <p>若手グループのリーダーや学生サークルを中心にロコミ動員を促進し、メディアには敏感だが実践の機会の少ない若年層の掘り起こしを図った。</p> <p>参加者には3～4人ずつのグループに分かれてもらい、鹿食害から守るため間伐材の杭3本でやぐらを組み、その中心に苗木を2～3株植え周囲に針金を巻く形式で、都合150セット、約400株のクヌギ・イチイガシの植樹をおこなった。</p> <p>人員と予算を効率的に活用するため、昨年植樹分の下草刈は緑川・球磨川双方少人数の有志で実施、今期の植林は緑川に集約して規模を拡充した。</p>
	<p>(事業実施効果)</p> <p>「今後の下草刈り等のメンテナンスにも参加して大切に育てたい」という声や、「テレビで見る近郊の公園でのセレモニー的な植樹とは違い、『森づくりのための植林』が体験できた」、「少人数のグループでも自分たちでできることから独自の活動を始めたい」という若手リーダーなど、今後の継続的な活動や横への広がりを期待できる感想を多数いただくことができた。</p>
6 参加内訳	総人数 130名
	(1)主催者参加 20名
	(2)日本人参加((1)を除く) 110名
	(3)外国人参加((1)を除く) 名
7 今後の方針	<p>事後メンテナンスとして下草刈や防護ワイヤーの手直し、植替えなど定期的の実施し歩留まりを上げることで、植林効果の向上を図る。</p> <p>各自植えた木に名札を掛けることで、参加者自身も「自分の植えた木がその後どうなっているのか」という意識の継続につながるため「手入れ会」や次回の「植林会」を呼びかけてゆきたい。</p>

主催者あいさつと趣旨説明



グループに分かれての作業



インストラクターによる巡回指導



防護ワイヤーを廻らし、名札を掛ける
参加者独自の工夫もみられた



昨年植樹分の下草刈とメンテナンス

